

編集部 滑稽俳句を始められたきっかけは？

田 中 若い頃から小説を書いていたのですが、俳句は、桑原武夫が言うように「第二芸術」であり、「カタコトの文学だ」、くらいにしか思っていませんでした。ところが、平成二十二年に図書館で、月刊誌の「俳壇」に八木会長の滑稽俳句欄を見つけ、これは面白いと思って入会しました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

田 中 私は、異才、秀才ではなく、天才に魅かれます。俳句の中では、滑稽俳句に魅かれるんですよね。巧く表現出来ませんが、理屈抜きに人を引き付ける力があることです。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

田 中 うーん、難問ですが、俳句に忘れてはならないものだと思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かった事は？

田 中 どこまでも生きようと力をくれた事です。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

田 中 ヨガの「ほほ笑みの屍のポーズ」をすることです。怖い名前ですが、このポーズには極上のリラックス効果があります。

【代表句】

新緑や福耳の孔の毛伸ぶる
なんでこう小春日和を好きなのか
屍のポーズをしたる夏座敷
西成の盆踊監視されたる
まれびとへの道を歩む春の山